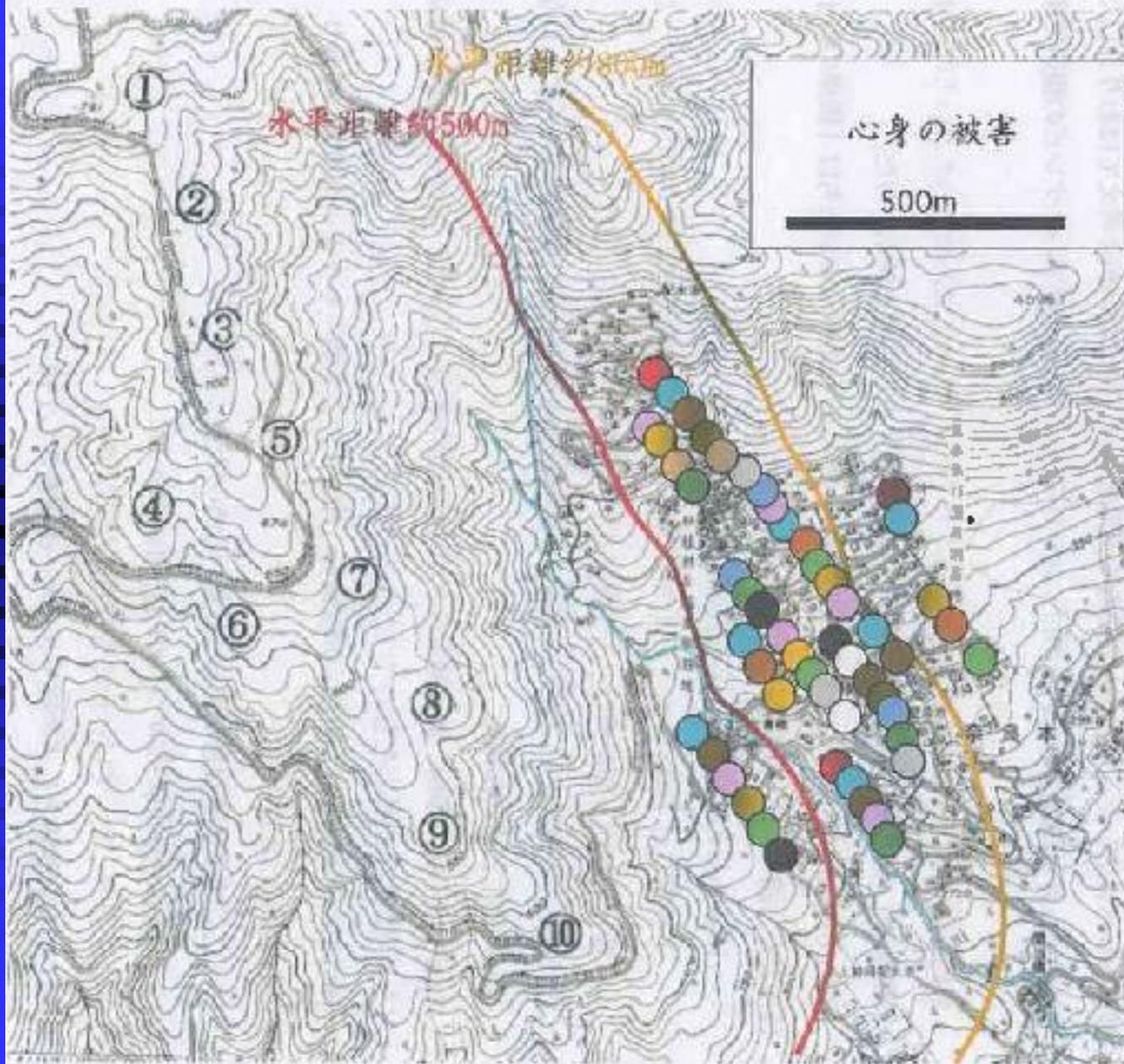


数字18号機風車の子ブ高風速

- 家の外で聞こえる 5件
- 家の中でうるさい 15件
- 夜うるさくて眠れない 17件



- 肩こりがする 8件
- 耳が痛い/圧迫感がある 8件
- 耳なりがする 6件
- 頭が痛くなる 7件
- 気分がいらいらする 6件
- 胸が締め付けられる 3件
- 胸・腹などの圧迫感がある 2件
- 歯が痛くなる 2件
- 吐き気がする 3件
- リンパ腺がはれる 3件
- 血圧が上がる 3件

13. 風車停止による被害改善

自治会第3回調査(09/7/1-7/26・資料6-1)

調査期間:09年7月1日～7月26日

調査対象:風車周辺住民約120名の個人、
約1000m以内の定住者 回答者77名

※ 表に記載のない「改善されない」「分からない」と答えた人は14人。

2人を除き、12人は仕事で昼間不在、地形または風車から遠いとの理由で「元々影響がなかった」回答者である。

※ 風車が停止して「改善された」と回答した人は、裏を返せば風車の被害者である。この人達が回答者に占める割合は82%で、08年3月と09年3月に実施した第1回と第2回の被害者結果と良く符丁している。

風車停止による被害の改善:

自治会第3回調査(09/7/1-7/26・資料6-2)

風車からの距離 R(m)	永住者 (人)	回答者 (人)	改善された人 (人)	改善率 (%)
R < 500	31	17	16	94
500 < R < 700	53	41	31	76
700 < R < 900	27	16	15	94
900 < R	10	3	1	33
合計	121	77	63	82

風車からの距離と被害の関係

風車停止による改善項目 資料6-3

風車からの距離 R	いらいら	不眠	腹胸	吐気	耳	頭痛	鼻血	頭痛	肩凝	リンパ ^o	血圧	他	通院	合計
R<500 (m)	9	12	5	0	2	0	0	3	4	1	3	2	0	42
500<R<700	18	11	5	3	4	2	2	8	6	1	6	6	1	80
700<R<900	8	2	0	3	1	0	0	8	4	0	0	0	1	31
900<R	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	35	25	10	6	7	2	2	19	15	2	9	8	2	154

被害改善率 資料6-4

風車からの距離(m)	煩い/いらいら	不眠	胸/腹/歯/鼻/耳	頭痛/肩凝	リンパ	血圧	薬	通院
R<500	59	71	41	41	6	18	12	0
500<R<700	61	27	39	35	2	15	15	2
700<R<900	75	13	25	81	0	0	0	6
900<R	0	0	0	33	0	0	0	0

※「煩い/いらいらする」等の心理的要素の強い被害は風車からの距離に依存しないが、他の不眠や血圧等の生理的被害は比較的風車からの距離に依存し、風車から離れるにしたがって減少するテーターとなっている。

熱川の重篤患者の証言①

女性71才 風車からの距離350m

天目(地名)風車10基が家の方に向かって回っている。音が異常で起きて歩けなくなった。動けば少し楽になるが、体が硬直したようになり、手足はしばらく動かない。食事の支度をするのがようやくで、掃除などは出来ない。10基回り始めた時このままでは死ぬのではないかと思った。頭が重く、耳の後ろが腫れて痛く、視野が狭くない目の前がよく見えなくなった。家を離れると症状はなくなる。耳の痛みが逆になり、右から左になった。膝にも痛みが出て歩行困難のようになった。

熱川の重篤患者の証言②

女性75才 風車からの距離500m



3月中頃、風車が全部(10基)回りました。予想以上に大きい音で、家の中では電気の紐が揺れたい、食器棚のガラスがカタカタと振動するほどでした。夜間は特に恐ろしく、この騒音がこれから一生続くかと考えだしたら、もう例えようのない絶望感に襲われました。

14. 結論

1) 環境省への要望事項

- ①「環境影響評価法」の義務づけ。
- ②風車被害に鑑み「参照値の風車への非適用の徹底」
- ③風車被害の疫学的調査の早急実施

2) 川勝知事の議会答弁

「伊豆半島におきまして低周波による被害が相当出ているという事実認識を持っております。従いまして、これについては十分に慎重に取り組んで参りたい。人の生命をあるいは生活を脅かすようなものは、たとえ新エネルギーとして素直に認めるわけにはいきません。」

※ 註

1. 自治会被害調査資料は「伊豆熱川連絡協議会」で検索下さい。
2. 「南伊豆町風力発電被害」も検索下さい。



ありがとうございました